

国立国会図書館 調査及び立法考査局

Research and Legislative Reference Bureau
National Diet Library

論題 Title	はしがき
他言語論題 Title in other language	Preface
著者／所属 Author(s)	大曲 薫 (OHMAGARI Kaoru) / 調査及び立法考査局長
書名 Title of Book	岐路に立つ EU 総合調査報告書 (The European Union at the Crossroads)
シリーズ Series	調査資料 2017-3 (Research Materials 2017-3)
編集 Editor	国立国会図書館 調査及び立法考査局
発行 Publisher	国立国会図書館
刊行日 Issue Date	2018-03-20
ページ Pages	—
ISBN	978-4-87582-808-2
本文の言語 Language	日本語 (Japanese)
キーワード keywords	—
摘要 Abstract	総合調査「岐路に立つ EU」はしがき

- * 掲載論文等は、調査及び立法考査局内において、国政審議に係る有用性、記述の中立性、客観性及び正確性、論旨の明晰（めいせき）性等の観点からの審査を経たものです。
- * 意見にわたる部分は、筆者の個人的見解であることをお断りしておきます。

はしがき

国立国会図書館調査及び立法考査局は、重要な国政課題についてプロジェクトチームを編成し、政策分野横断的に調査・分析を行う「総合調査」を実施しております。平成 29 年度は、「岐路に立つ EU」をテーマに選び、海外から専門家を招へいし日本の専門家も交えて討議を行う「国際政策セミナー」を開催したほか、現地調査、有識者からのヒアリング等を行いました。

EU（欧州連合）は、1952 年の ECSC（欧州石炭鉄鋼共同体）の創設に始まり、1958 年発足の EEC（欧州経済共同体）、1967 年発足の EC（欧州共同体）を経て、1993 年に発足しました。当初 6 か国であった加盟国も数次の拡大により今では 28 か国に上り、米国と並ぶ巨大経済圏となっています。

EU の発展史の中でも 1 つの画期となったのは、中・東欧諸国を含む 12 か国が加盟した第 5 次拡大（2004・2007 年）であり、欧州統合の夢の実現に一步近づいたとも評されました。その一方で、大きな経済格差を始めとする様々な問題を域内に抱え込むこととなり、「統合懐疑論」の台頭を招くことになりました。2005 年には、フランスとオランダで実施された国民投票の結果、両国ともに欧州憲法条約の批准が否決されるという事態も生じました。この時期、当調査及び立法考査局でも「拡大 EU の現状と今後の課題」を総合調査のテーマに取り上げ、その成果を報告書に取りまとめております⁽¹⁾。

これまでの過程を振り返ると危機の連続とも言われる EU ですが、2016 年に実施された国民投票の結果を受けて英国が離脱することとなり、新たな局面を迎えています。多くの加盟国で難民受入れ政策や緊縮財政政策等への反発が高まっており、フランス、ドイツ、イタリア等において EU からの離脱を主張する政治勢力の動きが注目を集めています。域内に矛盾や不協和音を抱えた EU は、これらの危機を克服し、求心力を回復することができるのか。本総合調査では、このような問題意識に基づき、制度面を中心にこれまでの EU の動きを整理するとともに、今後の我が国との関係の在り方についても考察いたしました。この報告書は、その成果を取りまとめたものであり、後日刊行予定の国際政策セミナーの報告書と併せ、御利用いただければ幸いに存じます。

調査に当たっては、この分野に造詣の深い多くの研究者の方々の協力を得ることができました。加えて、当調査及び立法考査局と連携協力関係にある欧州議会調査局（EPRS）の政策分析官からの寄稿も収録することができ、内容に厚みが増したものと自負しております。

この報告書が、国会議員の皆様の調査研究に資することはもとより、このテーマに関心をお持ちの皆様のお役に立つことを、心から願うものです。

平成 30 年 3 月

調査及び立法考査局長 大曲 薫

(1) 『拡大 EU—機構・政策・課題—総合調査報告書』（調査資料 2006-4）国立国会図書館調査及び立法考査局、2007。<<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1000914>>